



VS TONKORI v2.1.4

USER GUIDE

by **VERSUS** AUDIO



VS TONKORI USER GUIDE

■ユーザーガイド概要	——— 03
■PLAY画面の見方	——— 04
■キースイッチとメインメニューの機能	——— 06
■VOL TONE画面	——— 08
■SETTING画面	——— 09
■エフェクトページ	——— 12
■クレジット、お問い合わせ	——— 13

■ ユーザーガイド概要

VS TONKORI USER GUIDE（以下「当ガイド」）は、Versus Audio 製品の「VS TONKORI」についての説明を行います。

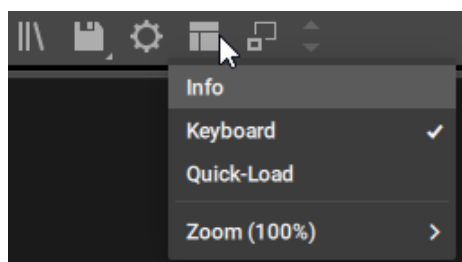
対象となるお持ちの音源を起動してこのガイドをご覧くださいことをお勧めします。

（※搭載する機能の有無や数や範囲については音源およびバージョンによって異なる場合があります。また、当ガイドの記述はバージョンアップや修正などによって予告なく変更される場合があります。当ガイドは、動作内容を保障するものではありません。当ガイドでは、母体となる「NI KONTAKT」本体そのものの機能等に関する説明は致しません。）

当ガイドの対象製品：「VS TONKORI」

当ガイド以外にも音源上でも簡易的なヘルプを表示することができます。

KONTAKT の Info (F9) を表示してマウスカーソルを音源のノブやメニューに合わせると、ヘルプが表示されますので、併せてご活用ください。



■ P L A Y画面の見方



演奏範囲 (クロマティック)

演奏範囲 (弦)

画像は、P L A Y画面の表示例です。音源を起動すると、まず始めにP L A Y画面が表示されます。

①情報表示バー

操作されたキースイッチに関する情報などを表示します。

②各弦演奏状態表示

各弦に対応したキーを演奏すると、以下の記号を表示します。音の長さに応じて徐々に小さくなります。

◆: Sustain Tip、▲: Sustain Nail、●: Sustain Pad、▲を3つ縦に重ねたもの: Sustain Strum、

◇: Brushing noise Tip、△: Brushing noise Nail、○: Brushing noise Pad、

×: Mute noise Tip/Nail/Pad (Release キースイッチなどでは表示されません)

③ヘルプスイッチ

音源の状態に合わせたヘルプを表示します。操作がわからない場合やキースイッチの確認などに使用します。

④パニックスイッチ

音源の動作が不安定なときにパニックスイッチを押すと、全ての音を停止し、発音や発音停止に関する内部変数を初期化します。

⑤メインメニュー

奏法指定など、音源をセッティングする上で最も重要な項目が並んでいます。

メインメニューにあるものは全て、キースイッチやCC(コントロールチェンジ)での操作に対応しています。

メニューのすぐ左にある小さいバーの色は対応したキースイッチの色を表しています。灰色はキースイッチではなくCCで操作可能なものです。この小さいバーを押すと小さいバーが明るい色のときはキースイッチが有効(表示)に、暗い色のときは無効(非表示)になります。キースイッチの位置確認として利用することも可能です。

(※メインメニューの機能については、別項「**■キースイッチとメインメニューの機能**」参照)

⑥画面変更スイッチ

PLAY画面やVOL TONE画面やSETTING画面に切り替えます。画像はPLAY画面が選択されている状態です。

(※SETTING画面については、別項「**■SETTING画面**」参照)

(※VOL TONE画面については、別項「**■VOL TONE画面**」参照)

⑦ベロシティ情報表示欄

現在の設定でのベロシティ情報や鍵盤範囲の情報を表示します。

ベロシティにより音量を指定する奏法では「Velocity to Volume」と表示されます。

「[Multi/All Vol] CC to Volume」と表示されている奏法ではSETTING画面のCONTROL CHANGEの【Multi/All Vol:●●】メニューで設定したコントロールチェンジでベロシティの代わりにボリュームを指定できます。

⑧奏法の情報表示欄

- ・ Sustain : 最も基本的な方法で鳴らしたメインのサステイン音
- ・ Brushing noise : ミュートしながら弾いたブラッシングノイズ音
- ・ Mute noise : 鳴っている音を手で止めるミュートノイズ音 (リリースノイズ音)
- ・ Tip : 指先で弾いた音
- ・ Nail : 爪で弾いた音
- ・ Pad : 指の腹で弾いた音
- ・ Strum : 複数の爪で掻き鳴らした音

青色の鍵盤が演奏範囲です。範囲内のシアン色の鍵盤はトンコリのチューニングで設定している音程です。

右側のシアン色の鍵盤はトンコリの弦と同じ配置になっています。左が5弦、右が1弦です。

弦のチューニングはSETTING画面で変更できます。

■ キースイッチとメインメニューの機能



画像は、PLAY画面でヘルプを表示したものです。(【Mode:Keyboard】選択時)

ヘルプ上段①奏法選択【Play:●●】(C-2～A#-2)

奏法を選択します。

【Play:Multi,All,Sustain Tip,Sustain Nail,Sustain Pad,Sustain Strum,Brushing noise Tip,Brushing noise Nail,Brushing noise Pad,Mute noise Tip,Mute noise Nail,Mute noise Pad】

【Play:Multi,All】では、ベロシティで奏法を指定します。【Play:Multi,All】ではベロシティでの単音ごとのボリューム指定ができません。SETTING画面のCONTROL CHANGEにある【Multi/All Vol:CC#●】で設定したCCでボリュームを指定します。

ベロシティで音量を指定したい場合は【Play:Sustain Tip】などの各奏法を指定してください。

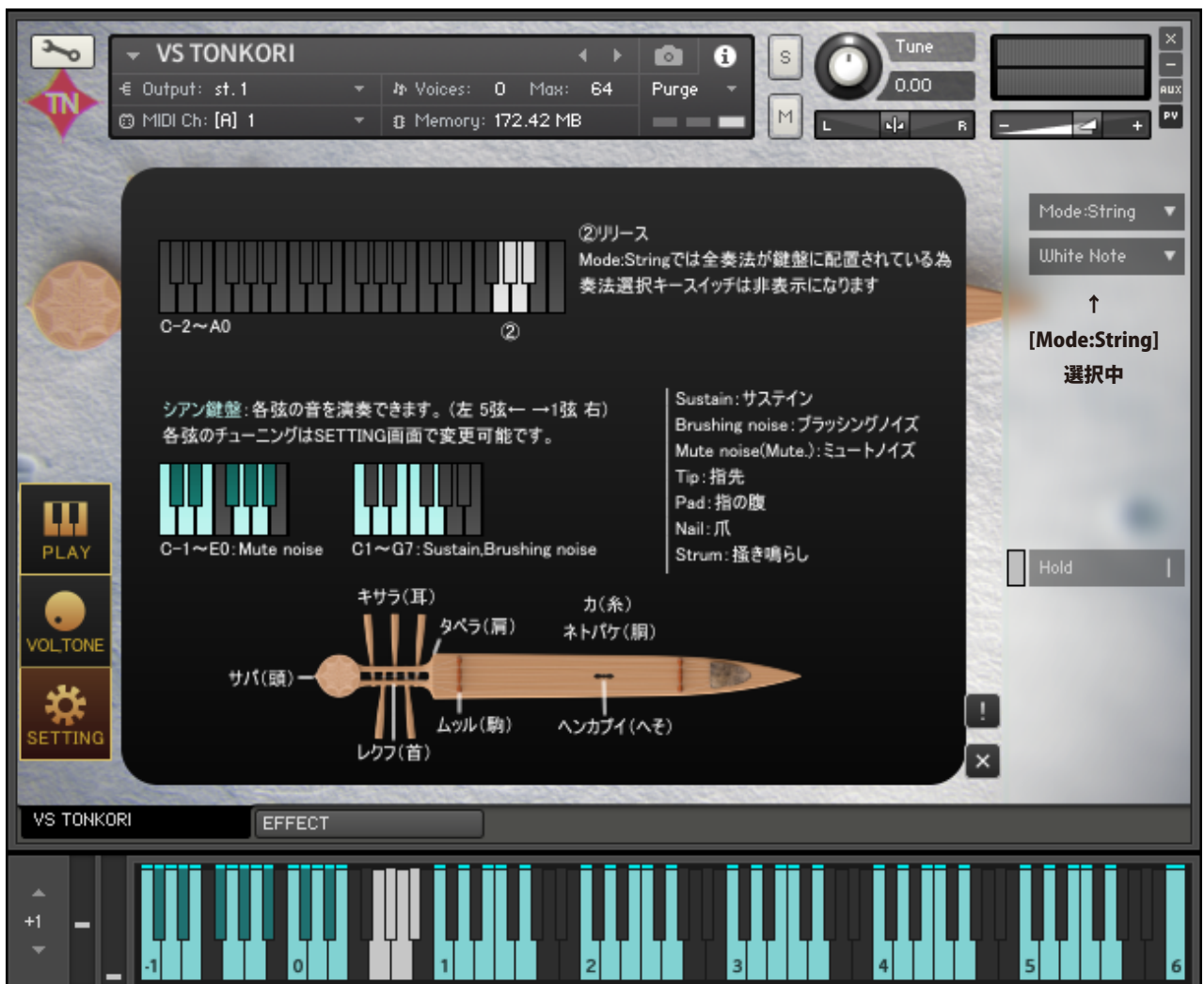
ヘルプ上段②リリース(G0～A#0)

G0:全ての音を止めて Mute noise Pad の音を鳴らします。(ノイズ音量自動調整)

G#0:全ての音を止めます。ベロシティ 64 以下ではリリースの長さを自動調整します。

A0:全ての音を止めて Mute noise Tip の音を鳴らします。(ノイズ音量自動調整)

A#0:全ての音を止めて Mute noise Nail の音を鳴らします。(ノイズ音量自動調整)



画像は、PLAY 画面でヘルプを表示したものです。([Mode:String] 選択時)

右上のメニューを【Mode:String】に変更すると、トンコリの弦配置になります。

5つ並ぶシアン色の鍵盤のうち、左が5弦、右が1弦の並びになります。

その下のメニュー【White Note】選択中は白鍵盤のみ、【White&Black】選択中は白黒鍵盤に配置されます。

C-1 ~ E0 に Mute noise Tip/Nail/Pad が並びます。この鍵盤では、ベロシティでミュートノイズの音量が決まります。白色のリリースキースイッチやサステインのベロシティ 10 未満ではミュートノイズの音量はサステインの音量や再生位置などによって自動的に決定されるという挙動の違いがあります。

C1 以上の鍵盤には Sustain や Brushing noise の奏法が並んでいます。

【Mode:String】では全奏法が鍵盤に配置されている為、奏法選択キースイッチやメニューは非表示になります。

■ VOLTONE画面



画像4 左下の「VOL,TONE」ボタンを押すと、VOLTONE画面が表示されます。

画像4

①メニュー【各MIC Stereo/Mono L/Mono R/Mono C】、パン

各マイクのスtereo・モノ、パンを指定します。(Mono L：左CH、R：右CH、C：左CH+右CH)

②スイッチ【各MIC PHASE】

各マイクの位相を反転します。「Normal」は通常の位相で「Reverse」は反転位相です。

③ノブ【各MIC VOL】 ④ノブ【各MIC WIDTH】

各マイクのボリューム、ステレオ幅を調整します。

⑤メニュー【カーブ選択 (Linear/Light)】

ベロシティに対するボリューム変化のカーブを変更します。Linear はベロシティに対して直線的に音量が変化しますが、Light は軽いタッチでも大きい音量になります。

⑥ノブ【VEL-VOL】

ベロシティに対するボリューム変化量を調整します。ホイッスルなどボリュームの調整がほとんどできない楽器では初期設定をゼロにしています。

⑦ノブ【RELEASE】 ⑧ノブ【RELEASE】

アタックやリリースの長さを調整します。長いリリースにするときにはリリースノイズをオフにすることをお勧めします。

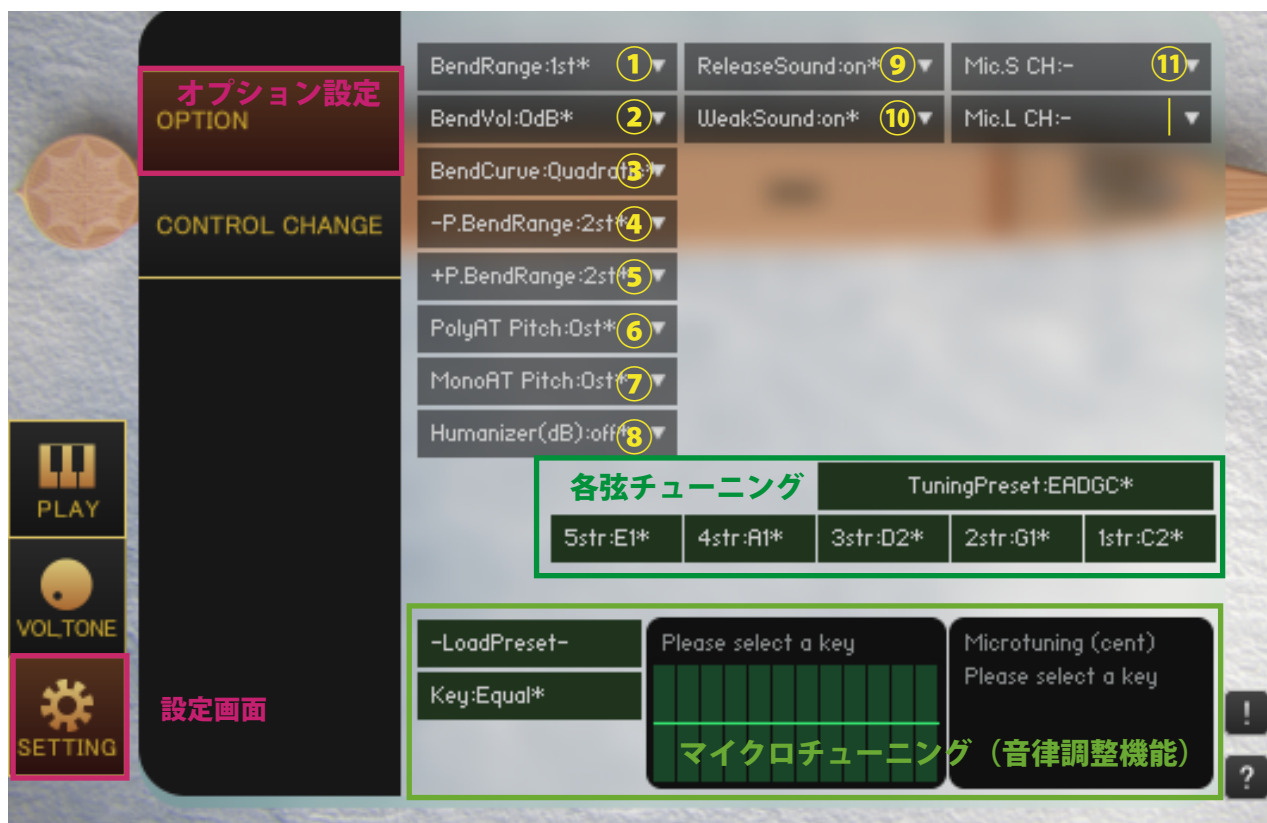
⑨ノブ【MASTER VOL】 ⑩ノブ【MASTER TONE】

マスターボリューム、マスタートーンを調整します。

⑪各マイクのサンプル読み込みオンオフスイッチ

オンにすると該当のマイクのサンプルを読み込み、使用できるようにします。オフにするとサンプルをページし、メモリ使用量減らします。

■ SETTING画面



左下の「SETTING」ボタンを押すと、SETTING画面が表示されます。
メニュー内の「*」が付いている値は初期設定値であることを意味しています。

①【BendRange:●】

CCで行うベンドのレンジを指定します。

②【BendVol:●dB】

CCで行うベンドのボリュームの減衰量を指定します。

③【BendCurve:Linear,Quadratic】

CCで行うベンドのベンドカーブを指定します。Linear：リニア、Quadratic：2次曲線カーブ

④【-P.BendRange:●fret】

ピッチベンドのマイナス値のレンジを指定します。

⑤【+P.BendRange:●fret】

ピッチベンドのプラス値のレンジを指定します。

⑥【PolyAT Pitch】

ポリフォニックアフタータッチ（ポリプレッシャー）による各ノートごとのピッチの変化量を指定します。

⑦【MonoAT Pitch】

モノフォニックアフタータッチ（チャンネルプレッシャー）によるピッチの変化量を指定します。

⑧【Humanizer(dB)】

ランダムに選択された音量（dB）を全ての音に適用します。例えば【Humanizer(dB):1dB】を選択した場合は、0～1 dBの間のランダムな音量変化を全ての音に与えます。

⑨【ReleaseSound:On,Off】

リリース時のミュートノイズのサンプルを発音するか発音しないかを指定します。

offのときはリリースキースイッチとサステインのベロシティ 10 未満のミュートノイズなどが無音になります。

⑩【WeakSound:On,Off】

ベロシティ値が小さいときに弱く弾いて録音したサンプルを使用するかしないかを指定します。

onのときはベロシティを下げていくと、自動的に弱く弾いて録音した音色に切り替わります。

offのときは強く弾いて録音した音をそのまま音量を下げて鳴らします。

⑪【Mic. S/Mic. L CH】

マイク毎にアウトプットチャンネルを指定します。マイク毎にパラアウトする場合に使用します。音源起動前に、CONTACT側でアウトプットチャンネルの設定を行っておくことが条件となります。設定が完了していれば、音源起動時にメニュー内にチャンネルが追加されます。【Mic. S CH:-】にすると、デフォルトの設定に戻ります。アウトプットチャンネルを変更すると、コンプレッサーやコンボリデュションリバーブなどのインサートエフェクトの前段の出力が指定したチャンネルに出力されます。音源ごとにパラアウトする場合は音源自体のアウトプットチャンネルを変更してください。

【各弦チューニング】

トンコリの弦と同じ配置のシアン色の鍵盤のチューニングを変更できます。

【TuningPreset:●●】でチューニングのプリセットを選択することもできます。

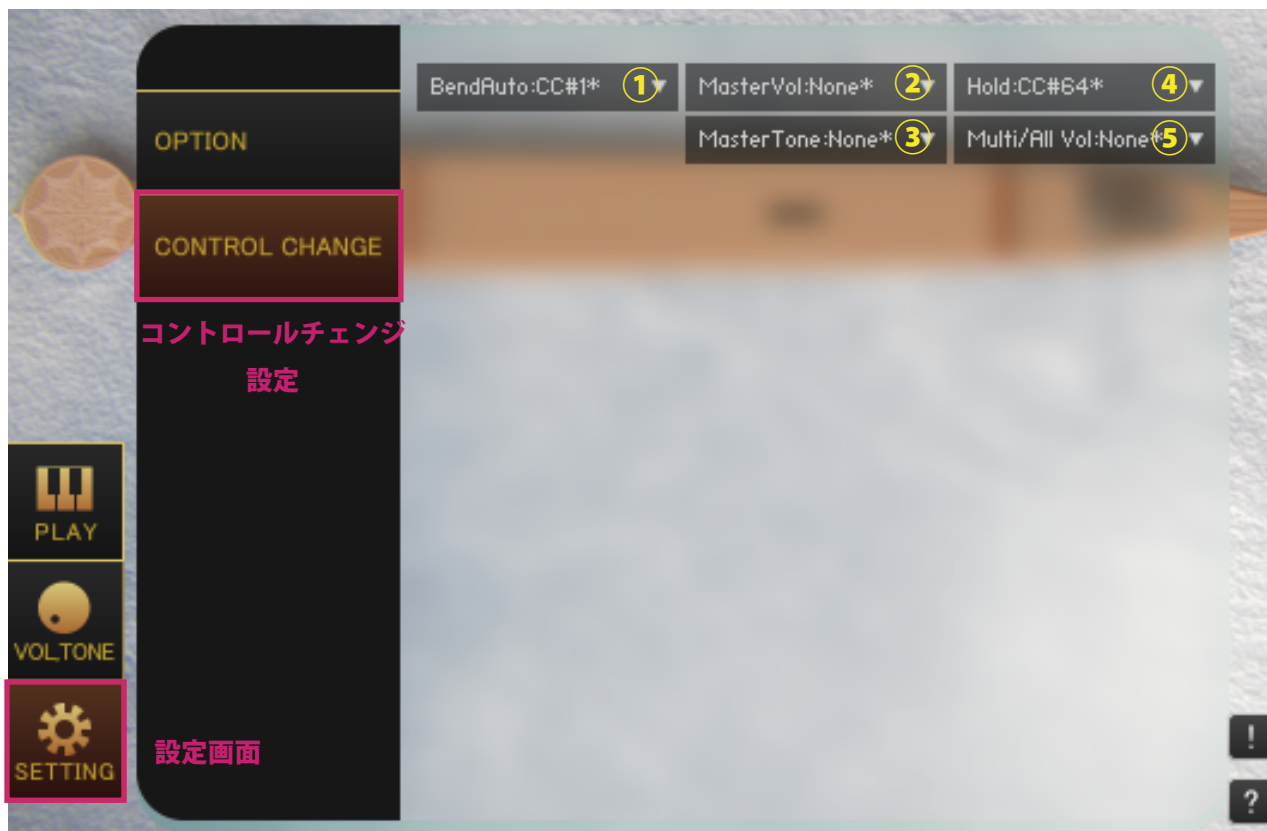
マイクロチューニング（音律調整機能）

各音程をセント単位で調整できる機能です。右のテーブルをドラッグして値を調整します。

【Key:C~B】を選択することで調整が適用されます。【Key:Equal】を選択すると平均律になります。

【-LoadPreset-】メニューからプリセットを選択でき、【Save >>> User12345】で現在の値を保存します。

ユーザープリセットデータは各音源の Library フォルダ内の Data フォルダに保存します。



①【BendAuto】

バンドをかけるコントロールチェンジを指定します。CCバンドでは最後に演奏したノートの音のみをバンドします。

②【MasterVol】

VOLTONE 画面【MASTER】の【VOL】ノブを操作するコントロールチェンジを指定します。

③【MasterTone】

VOLTONE 画面【MASTER】の【TONE】ノブを操作するコントロールチェンジを指定します。

④【Hold】

メインメニュー【Hold】を操作するコントロールチェンジを指定します。

⑤【Multi/All Vol】

【Play:Multi/All】ではベロシティで奏法を指定するため、ベロシティでの音量調整ができません。

【Multi/All Vol】で指定したコントロールチェンジの値で音量調整します。

■ エフェクトページ



①エフェクトスロット選択

エフェクトスロットを選択します。選択したスロットのエフェクトのノブやスイッチが表示されます。

②バイパススイッチ

エフェクトのバイパススイッチです。

③エフェクト選択

エフェクトを読み込みます。

④エフェクト入れ替えスイッチ

現在表示されているエフェクトを左右のスロットのエフェクトと入れ替えます。

(※(KT6)Kontakt6 以上 (KT7)Kontakt7 以上で利用可能です。Kontakt のバージョンが対応していないエフェクトをロードすると Empty になります。Kontakt のバージョンが対応していないパラメーターは操作しても反応しません。(KT6)Kontakt6.8.0 以上推奨、(KT7)Kontakt7.5.2 以上推奨)

⑤File Browser について

Convolution Reverb で File Browser を開くとフォルダ内のサンプルを利用できます。wav ファイルなどをダブルクリックをすると IR として読み込みます。フォルダのアドレスは画面の下部に表示されます。

"File Browser(Library)" では nki 保存フォルダ、"File Browser(Documents)" では Kontakt 本体の指定されたフォルダを基準にブラウザを表示します。

macOS: Macintosh HD/Users/*Your User Name*/Documents/Native Instruments/User Content/Kontakt 等

Windows: C:/Users/*Your User Name*/Documents/Native Instruments/User Content/Kontakt 等

■クレジット、お問い合わせについて

アートワーク（パッケージやG U Iの3 D/2 D C G）、プレーヤー、レコーディング、スクリプト、エンジニア：渡部浩成

※「KONTAKT」は Native Instruments 社の製品です。

製品の不具合等のお問い合わせは Versus Audio サイトの「SUPPORT」>「お問い合わせ」内のメールフォームから受け付けております。

Versus Audio

URL: <https://versusaudio.com/>

mail: info@versusaudio.com